



PROFILE

みずたに たつろう
水谷 達郎 さん(25歳)
愛西市立石町



イチゴで笑顔届けたい

水谷さんは就農して3年目を迎えます。現在は、あまイチゴ組合に所属し、15アールのハウスで県産品種イチゴ「ゆめのか」を栽培しています。今年、祖母の富子さんから代表を引き継ぎ、今は若き経営者として日々農業と向き合っています。

繊細な作業が求められるイチゴ栽培において、水谷さんが特に心がけているのが病害虫への対策です。イチゴは立地条件や気候によって刻一刻と変化するハウス内の温度や湿度の影響を受けやすいことから、病害虫の予防が難しいそうです。そこで水谷さんは、毎日イチゴの果実や葉の様子を一つずつ丁寧に観察し、いかに早期発見できるかが勝負だと話します。「就農して1年目に病害虫の被害で苦い経験をしました。どれだけ大切に育てようと思っても、一度病気がかかってしまうと出荷できなくなってしまうこともあるので、それ以来どんな小さな変化も絶対に見落とさないようにしています」と水谷さんは振り返ります。

また、イチゴは出荷した荷姿のまま量販店で陳列されるため、水谷さんはパック詰めの見映えにも気を配っているそうです。「栽培管理もパック詰めも、とにかく『丁寧に』の一言に尽きます。細部にまでこだわり抜くことが、消費者の方に喜んでいただけるイチゴの品質に繋がっていくと信じています」と水谷さんは力強く語ります。

今後の目標について伺うと、「現在は土耕栽培ですが、将来的には高設栽培も取り入れながら生産規模を拡大して、美味しいイチゴを安定的に多く出荷していきたいです」と笑顔で答えてくださいました。

最後に消費者の方に向けて、「ゆめのかは粒が大きくてツヤがあり、形も綺麗です。また、甘みと酸味のバランスも良く、果皮も柔らかすぎないので鮮度も長続きするなど、魅力的な品種です。コロナ禍で大変な日々ですが、ご自宅で過ごす時間も増えていると思いますので、ご家庭で料理やお菓子づくりをされる際にはぜひ「ゆめのか」を使っていたいただき、美味しいイチゴを食べて少しでも笑顔になっていただけたら嬉しいですよ」とメッセージをいただきました。



ゆめのか

“夢の叶うイチゴ”という願いを込めて名づけられた愛知県の品種です。あまイチゴ組合は66戸の生産者がおよそ16ヘクタールの面積でゆめのかを栽培しており、県下一位の産地です。

イチゴに多く含まれているビタミンCは、風邪の予防や疲労回復に効果があると言われています。

受験勉強や目標へのチャレンジのお供に、今が旬の夢の叶うイチゴ“ゆめのか”をぜひご賞味ください!